

今帰仁村「今泊地区」

集落
部門

世界遺産と古の佇まいを今に伝える今泊のふるさとづくり (平成23年度認定)



今泊地区は、1903年に「今帰仁」と「親泊」の2つの字が合併して誕生した。今帰仁村の西端にあって本部町に隣接しており、古くから農業の盛んな地域として知られている。県内有数のマンゴー生産地である今帰仁村の中でも、最もマンゴー生産の盛んな地域であり、平成22年度のマンゴー生産量は48tであり今帰仁村全体の26%を占める。

また、世界遺産である今帰仁城をはじめとして、琉球の創造神が降臨したと伝えられている「クバの獄」や子宝を授かる拝所である「プトウキヌイッピャー」（解きの岩）といった、歴史的に重要な遺産が多くある。

その中で、4年に一度行われる豊年祭は、地域住民総出で数ヶ月の準備を経る非常に盛大な祭りであり、3日間にわたって行われる。その他にも、ウンジャミ(海神祭)、ウマチー(麦穂穂御願)、アブシバレー(立御願)といった農耕儀礼を年中行事として行いその継承に努めている。

また、小学生から老人会まで幅広い世代で行う海浜や城跡周辺、湧水エーガーなどの美化作業は100年以上も前から世代を超えて行われており、今泊の歴史的遺産と美しい自然の維持の一助となっているなど、環境保全活動も非常に活発である。

これらの地域活動や伝統文化を今後ますます継承発展させながら【世界遺産と古の佇まいを今に伝える今泊のふるさとづくり】に取り組んでいる。



豊年祭



ウンジャミ(海神祭)



海辺の清掃



今泊の海辺



天然の湧水 エーガー



今泊のフクギ